

2010年3月期 通期

(2009年4月～2010年3月)

決算説明資料

株式会社 アドテック



1: 事業概要

目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

—ADTEC, Memory & Technology—

アドテックは、「お客様本位」・「品質第一」を基本方針とし、お客様のニーズに対応する、高品質で価格競争力のある優れた製品(メモリモジュール製品、フラッシュメモリ製品、その他製品)を開発し、きめ細やかな対応をもって市場に展開してまいります。

会社名 : 株式会社アドテック
 代表者名 : 代表取締役社長 三村 益一郎
 創立年月日 : 昭和58年2月17日
 資本金 : 14億6,921万円
 従業員数 : 30名(平成22年3月31日現在)
 本店所在地 : 東京都中央区湊一丁目1番12号
 事業内容 : 電子部品及びコンピューター関連製品の開発・製造・販売
 監査法人 : 東陽監査法人



メモリ製品の開発・設計及び製造管理



メモリ製品の開発・設計及び製造管理における環境対策

目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

景気後退・設備投資の低迷
販売不振製品の在庫処分



売上高減少
収益悪化

(単位:百万円)	2009年3月期	2010年3月期	増減	主要因
売上高	3,257	1,722	△1,535	<ul style="list-style-type: none"> ● メモリ:OEM顧客生産調整による出荷数減及び販売単価下落 ● フラッシュ:携帯電話出荷数減少による出荷数減及び販売単価下落 ● 在庫処分、評価損の増加 ● 新規製品の投入
売上総利益	405	74	△331	
売上総利益率	12.5%	4.3%		
販管費	524	499	△25	
営業利益	△118	△424	△306	<ul style="list-style-type: none"> ● (第4四半期) 人員削減その他大幅な経費削減
営業利益率	—	—		
営業外損益	2	8	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 為替差益の増加 ● 短期借入金・借入金利の減少
経常利益	△115	△415	△300	
経常利益率	—	—		<ul style="list-style-type: none"> ● 投資有価証券売却益他
特別損益	△2	3	5	
当期純利益	△121	△415	△294	
当期純利益率	—	—		

2: 2010年3月期決算概要－製品別販売状況－

メモリ需要減による売上高縮小、その他ビジネスの不振（在庫処分）
メモリ関連事業の深化・拡大（B to Bビジネス、ニッチ市場等）へ

目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

(単位:百万円)		2009年3月期	2010年3月期	前年比	主要因
メモリモジュール		1,397	838	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・OEM需要減による数量減少（前期比15%減少） ・市況下落による販売単価の低下（前期比29%減少）
フラッシュメモリ		729	402	55%	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話出荷数減少による数量減少（前期比38%減少） ・市況下落による販売単価の低下（前期比11%減少）
車載関連		132	64	49%	<ul style="list-style-type: none"> ・景気低迷による設備投資の低迷 ・新規参入会社 ・新機種 of 発売遅れ
その他	PC	310	120	39%	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカー側の方針変更
	PC・携帯周辺機器	73	164	223%	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプロジェクター投入効果
	その他	616	133	22%	<ul style="list-style-type: none"> ・液晶パネルのTrading-Bizの取り止め
売上高合計		3,257	1,722	53%	

目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

当期純損失による純資産減少、現預金の増加

(単位：百万円)

項目	2009年3月期	2010年3月期	増減	主要因
流動資産	1,929	1,381	△548	
現金及び預金	677	796	119	現預金の増加
受取手形・売掛金	673	256	△417	売上債権の減少
棚卸資産	402	208	△194	不良在庫・不動在庫の処分
その他流動資産	176	120	△55	
有形・無形固定資産	48	41	△6	
投資等その他の資産	101	70	△31	
資産計	2,079	1,493	△585	
流動負債	497	327	△169	
買掛金	113	73	△40	
短期借入金	280	198	△81	借入金返済
その他流動負債	103	55	△47	
固定負債	51	44	△7	
株主資本	1,526	1,111	△415	
資本金	1,469	1,469	0	
資本剰余金	281	281	0	
利益剰余金	△93	△508	△415	当期純損失
自己株式	△130	△130	△0	
評価・換算差額等	△6	△1	5	投資有価証券評価減
新株予約権	10	11	1	
純資産合計	1,530	1,121	△408	
負債及び純資産計	2,079	1,493	△585	

営業CFの増加、現預金残高の増加

(単位:百万円)

項 目	2009年3月期	2010年3月期	当期増減の主要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	386	158	税引前当期純損失 (412) 売上債権の減少 (417) 棚卸資産の減少 (194)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33	41	固定資産の取得 (14) 敷金等の回収(50)、支出 (15) 投資有価証券の売却 (18)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70	△81	短期借入金の返済 (81)
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	0	
現金及び現金同等物の増減額	286	119	
現金及び現金同等物の期首残高	390	677	
現金及び現金同等物の期末残高	677	796	

目次

1:事業概要

2:2010年3月期決算概要

3:2011年3月期予想

売上高の著しい減少、継続的な営業損失の発生
事業計画の達成見込みの不確実性



継続企業の前提に
関する注記

今後の対策

※新経営陣による新経営体制の確立

※経営基盤の再構築と収益構造の改善

※業績の早期回復

- ・選択と集中による売上拡大(①メモリ事業、②車載事業、③エコ環境事業)
- ・在庫管理と費用削減施策の継続



◎早期の黒字化達成(単月・毎四半期・半期・通期)

* (株)パナ・アールアンドディとの協業

* シンデン・ハイテックス(株) 及び (株)MCJとの協業継続

目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

お客様本位 品質第一

◎製品開発力の維持向上 ◎品質の向上と安定 ◎速やか、きめ細やかな対応

メモリー関連事業

※B to B ビジネス (OEM向け)

[DRAM]

- ・サーバー用メモリモジュール
- ・組込PC用メモリモジュール
- ・カスタマイズ製品 (OEM向け製品)

[NAND FLASH]

- ・SATAインターフェース製品
- ・低容量、高容量フラッシュカード
- ・SSD

車載関連事業

- * ドライブレコーダー
- * 車載用防犯カメラ
- * 車載用高容量SDカード

エコ・環境関連事業

- * ニッチ市場
- * 新規製品の開発

※選択と集中 ⇒ ◎売上の拡大 ◎安定した収益の確保 ◎将来の展望

☆総経費の適正化 ☆在庫管理 (在庫の適正化) ☆財務体質の改善

利益回復

収益体質の改善

3: 2011年3月期予想 (2)

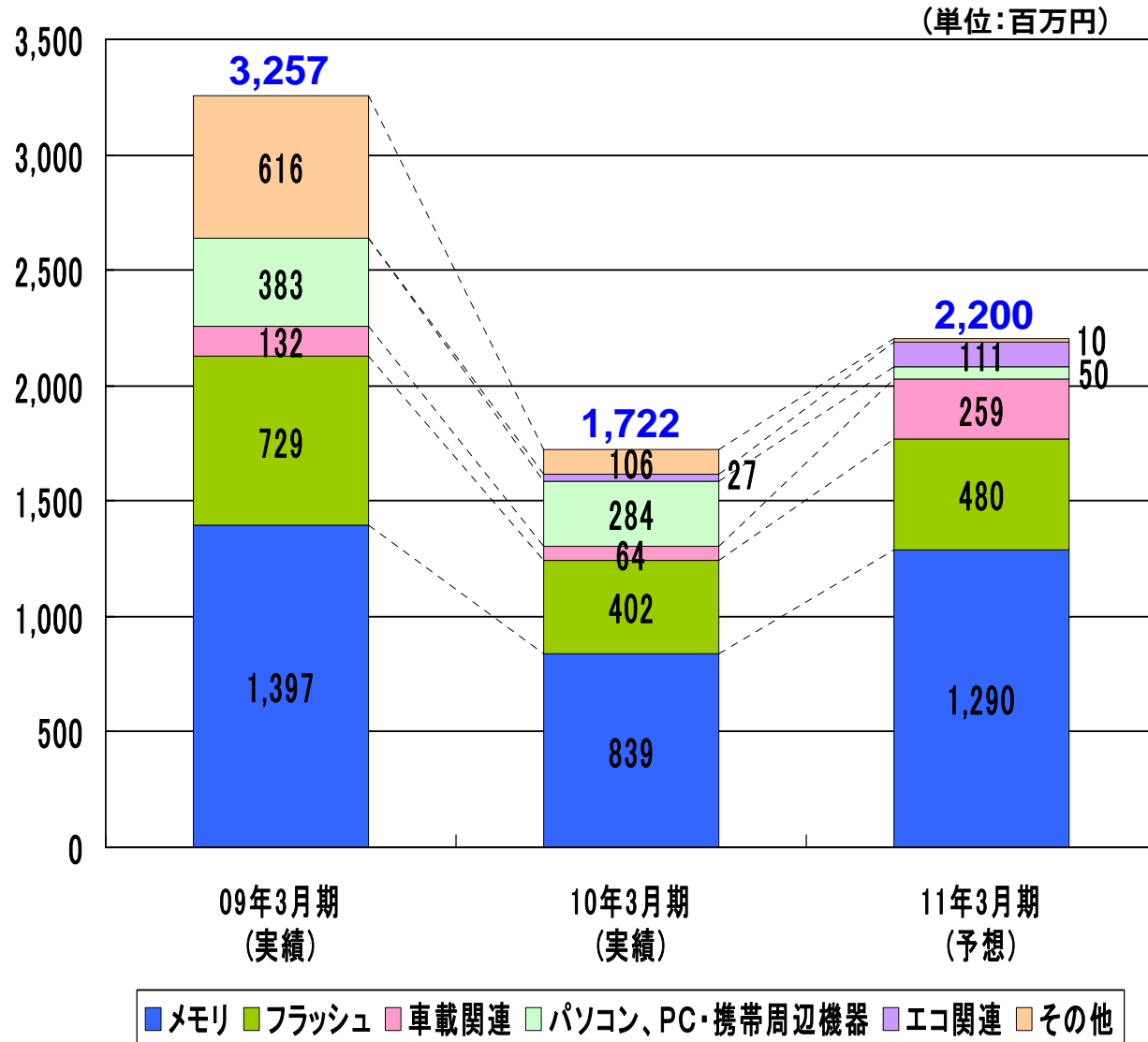
目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

売上構成推移 ①メモリ関連事業の拡大・深化 ②車載事業の拡大



メモリモジュール
・OEM向け製品 (産業機器向け)
・一般向け製品

フラッシュメモリ
・OEM向け製品 (産業機械・車載向け等)
・一般向け製品

車載事業
・ドライブレコーダー等
・新規製品の開発 (株)パナ・アールアンドディとの協業

エコ環境事業
・ニッチな市場
・新規製品の開発

PC・PC携帯周辺機器
・お客様のニーズに対応
・(株)MCJグループとの協業

目次

1: 事業概要

2: 2010年3月期決算概要

3: 2011年3月期予想

メモリ・フラッシュ関連事業の深化・拡大、車載事業の拡大 経費の適正化

(単位:百万円)	2010年3月期 実績	2011年3月期 計画	前年比	主要施策
売上高	1,722	2,200	128%	<ul style="list-style-type: none"> ●メモリ・フラッシュ製品 OEM新規案件の獲得 B to B ビジネス ●車載事業 ドライブレコーダー ●環境事業 ●適正在庫 … IPS管理
売上総利益 売上総利益率	74 4.3%	312 14.2%	422%	
販管費	499	300	60%	<ul style="list-style-type: none"> ●内部統制システムの見直しによる業務の効率化 ●人員及び総経費の適正化
営業利益 営業利益率	△424 —	12 0.5%	—	
経常利益 経常利益率	△415 —	17 0.8%	—	
当期純利益 当期純利益率	△415 —	13 0.6%	—	



利益回復

本資料の閲覧誠にありがとうございました。

<http://www.adtec.co.jp>

本資料の取扱上のご注意

本資料に記載された意見や予測などは資料策定時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、予告なしに変更される可能性もございます。